

教師を忙しくさせてはいけない 教師にはゆとりが必要

1 はじめに

机の中のファイルを整理していたら、以前、勤務していたときの教員との相談記録(メモ)が出てきました。最前から、教師にはゆとりが必要であると感じていましたが、改めて、そのことが、このメモから確認できました。

2 相談記録(メモ)

その内容は次の通りです。

昨日までイライラすることが多かった。今日は気持ちがゆったりしているので、なぜかを振り返ってみました。お別れ集会の取り組みでとても忙しかった。カリカリしていたから、子どもへの声かけも雑になったと思うし、子どもとも全然会話ができていなかった。

3 教師にはゆとりが必要

この教師は、忙しくなって、「子どもへの声かけが雑になった。子どもとの会話が減ってしまった。」と述べています。教師が忙しくなると、やるべきことが優先されるので、子どもたちの様子を丁寧に見ること、子どもとの会話、子どもとの関わりが減っていきます。

教材研究も雑になります。本来、教材研究は、子どもの実態に合わせて学習内容の本質に迫ることを目指すわけですから、以前に教えた内容であったとしても、教材研究は必要です。教師は忙しくなると、とりあえず、1時間の内容を押さえられればそれで良しとなります。だから、教材研究が雑になるのです。当然、家庭訪問は緊急性・必要性に迫られない限り、行われません。学級便りも滞りがちになるのではないのでしょうか。

4 おわりに

今回の事例は学校行事による忙しさでした。これは学校が大切にしているところですから、やむを得ません。しかし、教師にはいわゆる、雑用となる仕事が多い。この辺りは、行政の方でしっかり対応していただきたいものです。